

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		令和3年 10月15日
京都府京都市左京区松ヶ崎上町1番地		氏名（法人にあつては、名称及び代表者の氏名） 国立大学法人京都工芸繊維大学 学長 森迫 清貴
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001	
適 用 範 囲	松ヶ崎キャンパス、嵯峨キャンパス	
導 入 年 月 日	2001年 9月10日	
認 証 番 号	JQA-EM6962	
基 本 方 針	京都工芸繊維大学は、「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」を基軸として、自然環境保全と安全の確保に配慮した教育と研究を積極的に推進し、科学技術の進歩と持続可能な社会の発展に貢献する。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	エネルギー使用量の削減：2019年度は2014～2016年度の平均使用量に対して4.5%削減する。 水使用量の管理徹底：水使用量を抑制する。 紙使用量の削減：2019年度は2018年度比1%削減する。 廃棄物の削減・再利用・再資源化（3R）の推進：分別・削減を徹底する。	
目標を達成するための取組の内容	エネルギー使用量の削減： ・昼休みの一斉消灯 ・エアコンの設定温度の徹底 ・高効率照明・省エネ機器への更新 水使用量の徹底管理：年間使用量の公開、節水の掲示 紙使用量の削減：両面印刷・裏紙利用推進 廃棄物の削減・再利用・再資源化（3R）の推進：3Rを推進、資源ごみの分別収集の徹底、紙・消耗品の再使用、リユースシステムの活用	
目標を達成するための取組の進捗状況	エネルギー使用の効率化：高効率照明・省エネ型機器への更新計画を作成し、2011年度より順次更新している。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	エネルギーについては、2014～2016年度平均使用量との比較で、目標値（3.0%削減）は未達成であった。これは、福知山キャンパスの開学のため、エネルギー使用量が増加したことによると思われる。その他については水、紙は達成、廃棄物は未達成であった。 成果については、環境安全報告書を発行して公開している。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について、内部監査及び外部審査で確認を行っている。これまで違反等はなかった。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境マネジメントシステムを長年運用することで、省エネ活動が定着し、活動を通じて学生の環境安全マインドが育成されてきている。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。